

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ロイヤルスクエア枚方公園 児童発達支援		
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日 ～ 令和7年 3月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが縦割りの環境の中で過ごしている。 昔子どもたちが町内で集まり遊んでいた様な環境になっている。 。大きい友だちとの関わり遊びでは相手をしてもらうことで自分よりも小さい友だちに優しく関われる。	集団活動のチーム分けも年齢を混在させて作っている。 応援や活動の動きなど大きい友だちに誘導してもらうことで難しい活動にも参加出来る。	大きい友だちにはトランプやゲームをする時には手加減をしない勝負をお願いしている。負けることに慣れることで、くじけることなく何度も挑戦する気持ちになってほしいと願っている。幼いながらも手加減をもらっていることを感じ取ってしまうことで遊びの楽しさが半減してしまうと考えられるので。ゲーム中は職員が見守り、仲立ちをする。
2	理学療法士による運動療育の実施。 身体機能や自分のボディイメージを持つことでより運動能力を上げていく。	チームプレイで競争を意識しながら楽しく身体を動かす。 子どもたちの成長に合わせた運動やルールを設定している。	理学療法士の個別のオピニオンを保護者の方に伝える。
3	イベント開催でいろいろな経験をしてもらうことで成長のお手伝いをさせていただく。	子どもたちに行ってみたい所や以前のイベントで楽しかった事を聞き、次のイベントに期待や楽しみを持ってもらう。	警察見学や消防署見学など将来の職業や働くことへの興味を持ってもらえるように大人のお仕事の手伝いをしてもらう。 シール貼りや脳バランスキッズの名前貼り等、年齢に合わせたお手伝いをもらい、自信をもってもらおう。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療育室が狭く感じることがある。	基準は満たしているものの、子どもたちの成長に伴い身体が大きくなっている（身体の成長は喜ばしいことです。）ので狭く感じられる。	活動内容によっては家具の移動をして対応している。 今後パーティーなど部屋を区切り活動によっては「動、静」、年齢の「低、高」の区別をつけたいと考えています。
2	近くに公園など戸外で活動できる場所がない。	住宅とマンションに囲まれていて公園が遠いところある。 マンションの敷地内の公園は使えないので。	身体を動かす活動や運動療育を取り入れたり、イベントで戸外に出かけることを心がけている。
3	玄関に段差がありバリアフリーが難しいこと。	賃貸なので玄関をリフォーム出来ない。	すのこを敷いて段差がない様にしているが不十分だと感じる。 。玄関全体にすのこを敷くなどして段差を無くしたいと思っています。